

重点取組分野	平成28年度		総括	重点取組分野	平成29年度		総括	重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果			具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①全学級で学習スタンダードを意識した授業展開を図ると共に、チームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着をめざす。②重点研の研究テーマを「心豊かでともによりよく生きるために自分らしく表現し認め合おうとする子どもの育成」と設定し、国語科を中心に主体的に課題解決の中で、自分の言葉で表現する活動を設定する。	どの授業でも、言語活動を積極的に取り入れることができた。子どもが主体となる授業を心がけた。国語科を中心にカリキュラムマネジメントを意識し、横断的な単元づくりや学びの深まりについて研究することができた。	A	確かな学力	①全学級で学習スタンダードを意識した授業展開を図ると共に、チームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着をめざす。②重点研の研究テーマを「主体的に課題解決に向かい、学び合う学習活動を通して、自分の考えや思いを深めていく子どもの育成」と設定し、国語科を中心に主体的に課題解決の中で、自分の言葉で表現する活動を設定する。	②重点研では書くことをテーマに、ふりかえりについても研究したことで、児童が自分の考えをもって学習に臨むようになった。意見交流の機会をできるだけ取り入れ、昨年以上に言語活動を充実させた授業を行うことができた。その結果、児童一人ひとりが自ら課題意識をもち、主体的に学習に取り組んだ。	A	確かな学力	①全学級で学習スタンダードを意識した授業展開を図ると共に、チームティーチングを効果的に取り入れ、基礎・基本の定着をめざす。②重点研の研究テーマを「主体的に課題解決に向かい、学び合う学習活動を通して、自分の考えや思いを深めていく子どもの育成」と設定し、国語科を中心に主体的に課題解決の中で、自分の言葉で表現する活動を設定し、深い学びにつなげる。		
豊かな心	①月一回のたてわり集会を充実させると共に、全校たてわり遠足を実施し、学級集団だけではなく異年齢同士のつながりを築いていく。②自ら進んであいさつし、保護者、地域とふれ合う活動を大切にすると共に「横浜の時間」では「人」とのつながりを生かした学習を展開する。③飼育動物や栽培している植物の世話を通して命の大切さを理解させる。	たてわり活動やあいさつ運動を全校で展開し、校内で挨拶の輪を広げることで異年齢同士のつながりを築けた。横浜の時間などで地域の方と関わる機会が増えたことにより、豊かな心の育成を図ることができた。	A	豊かな心	①たてわり活動では、6年生を中心に異学年での交流をすることができた。②児童会を中心にあいさつ運動を進め、学年などにとらわれず、校内にあいさつの輪が広がるようになった。「横浜の時間」では積極的に「人」と関わり課題を解決しようとする児童の姿も見られたが、学年・学級で差が見られた。	B	豊かな心	①月一回のたてわり集会を充実させると共に、全校たてわり遠足を実施し、学級集団だけではなく異年齢同士のつながりを築いていく。②自ら進んであいさつし、保護者、地域とふれ合う活動を大切にすると共に「横浜の時間」では「人」とのつながりを生かした学習を展開する。③飼育動物や栽培している植物の世話を通して命の大切さを理解させる。			
健やかな体	①体育科の授業の始めと終わりに継続的に一定の運動(柔軟体操、走る運動)を取り入れる。②健康チャレンジタイムを設け、体づくり、ボール投げ、持久力を高める運動などを行う。③運動の楽しさを味わうことを通して、継続的な運動を推進し、体力向上を図る。④健康で丈夫な体をもつ児童を育てるために小中連携しての学校保健委員会を年一回開く。	体育科では通年で一定の運動に取り組んだことで体力の向上が見られた。健康チャレンジタイムでは、様々な運動に取り組み、児童が運動する意欲につながった。児童の保健委員会によるハンカチ・ティッシュ調べにより、携帯する児童が増え、衛生への意識が高まった。	A	健やかな体	①体育科の授業の始めと終わりに継続的に一定の運動(柔軟体操、走る運動)を取り入れる。②健康チャレンジタイムを設け、体づくり、ボール投げ、持久力を高める運動などを行う。③運動の楽しさを味わうことを通して、継続的な運動を推進し、体力向上を図る。④小中合同学校保健委員会を通じて、中学校の取組を知ることができ、互いに健康意識を高めた。	A	健やかな体	①体育科の授業の始めと終わりに継続的に一定の運動(柔軟体操、走る運動)を取り入れる。②健康チャレンジタイムを設け、体づくり、ボール投げ、縄跳び、持久力を高める運動などを行う。③運動の楽しさを味わうことを通して、継続的な運動を推進し、体力向上を図る。④健康で丈夫な体をもつ児童を育てるために小中連携しての学校保健委員会を年一回開き、健康意識を高める。			
児童・生徒指導	①これまでの「学校のきまり」を見直すと共に、実情にあった表現にしていき、全職員で共有して指導にあたる。②児童代表委員会を充実させ、年一回の全校あいさつ運動を継続していく。③職員会議内に児童理解の内容を必ず入れ、児童の状況を共通理解する。	学校のきまりを実情をもとに見直したことで、児童にとってもきまりの意味が理解しやすくなった。職員での共有が十分でなかったところもあり、さらなる共通理解に努める。児童理解の機会をもったことで、全校で児童の情報を共有することができた。	B	児童・生徒指導	①これまでの「学校のきまり」を見直すと共に、実情にあった表現にしていき、全職員で共有して指導にあたる。②児童代表委員会を充実させ、年一回の全校あいさつ運動を継続していく。③職員会議内に児童理解の内容を必ず入れ、児童の状況を共通理解する。	B	児童・生徒指導	①これまでの「学校のきまり」を見直すと共に、実情にあった表現にしていき、全職員で共有して指導にあたる。②児童代表委員会を充実させ、年一回の全校あいさつ運動を継続していく。③職員会議内に児童理解の内容を必ず入れ、児童の状況を共通理解する。			
特別支援教育	①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、週案で学習予定を確認し、学年研等で積極的に打ち合わせを行い、学年・学級通信と個別支援学級通信の運動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザインの授業づくりについて理解する。③合理的配慮について、教職員の理解を深めるために研修していく。	一般学級と個別支援学級の連携を強化することで、困り感のある児童を複数の人や場所で指導に当たることができた。ユニバーサルデザイン・合理的配慮については研修を行った。さらに全職員で理解を深めていく。	B	特別支援教育	①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、週案で学習予定を確認し、学年研等で積極的に打ち合わせを行い、学年・学級通信と個別支援学級通信の運動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザインの授業づくりについて理解する。③合理的配慮について、教職員の理解を深めるために研修していく。	A	特別支援教育	①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、週案で学習予定を確認し、学年研等で積極的に打ち合わせを行い、学年・学級通信と個別支援学級通信の運動を図る。②個別支援学級の環境整備を全職員で行い、ユニバーサルデザインの授業づくりについて理解する。③合理的配慮について、教職員の理解を深めるために研修を行い、車いすを使用する児童への共通理解を図る。			
地域連携	①中学校ブロックでのクリーン作戦(地域清掃)で地域の美化に対する意識を高め、児童と職員が協力して地域の行事に参加していく。②地域防災訓練に対して学校の協力体制を整え、学校が行う防災訓練と整合性を考えていく。③まちの教育ボランティアを積極的に学校に招き、児童が地域を知る機会を増やしていく。	中学校ブロックでのクリーン作戦やミドリノクの取組等で児童や教職員の地域に参画する意識が高まった。まちの教育ボランティアを学校に招き、児童が地域の方に触れる機会が増え、地域と緊密に連携することができた。	A	地域連携	①中学校ブロックでのクリーン作戦(地域清掃)で地域の美化に対する意識を高め、児童と職員が協力して地域の行事に参加していく。②地域防災訓練に対して学校の協力体制を整え、学校が行う防災訓練と整合性を考えていく。③まちの教育ボランティアを積極的に学校に招き、児童が地域を知る機会を増やしていく。	B	地域連携	①中学校ブロックでのクリーン作戦(地域清掃)で地域の美化に対する意識を高め、児童と職員が協力して地域の行事に参加していく。②地域防災訓練に対して学校の協力体制を整え、学校が行う防災訓練と整合性を考えていく。③まちの教育ボランティアを積極的に学校に招き、児童が地域を知る機会を増やしていく。			
				いじめに関する項目	①全校朝会で、いじめのない学校にしていくことを子どもたちに投げかけ、一人一人が相手の気持ちを尊重して生活するよう話をする。②いじめの早期発見に努め、事案が発生したら担任、学年、専任、管理職で早急に共通理解し、いじめ対策防止委員会を開いて対応を協議し、迅速な解決を図る。	B	いじめに関する項目	①全校朝会で、いじめのない学校にしていくことを子どもたちに投げかけ、一人一人が相手の気持ちを尊重して生活するよう話をする。②いじめの早期発見に努め、事案が発生したら担任、学年、専任、管理職で早急に共通理解し、いじめ対策防止委員会を開いて対応を協議し、迅速な解決を図る。			
人材育成・組織運営	①美小ユースを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となり、研究授業を含め月一回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図ると共に事務の簡便化、効率化を図る。③週二回の打合せを通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通して学校運営を考えていく場を設定する。	経験の浅い教員同士で意見交換等しながら研修に取り組み、授業力を高めることができた。主幹教諭が学年の情報を把握し調整を図ることで、スムーズな学校運営を行っている。	A	人材育成・組織運営	①美小ユースを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となり、研究授業を含め月一回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図ると共に事務の簡便化、効率化を図る。③週二回の打合せを通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通して学校運営を考えていく場を設定する。	A	人材育成・組織運営	①美小ユースを5年次以下の教職員を中心に組織し、ミドルリーダーが講師となり、研究授業を含め月一回の活動を継続して行う。②情報機器を活用し、情報の共有化を図ると共に事務の簡便化、効率化を図る。③情報ネットワークを用いて全職員に周知することで、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通して学校運営を考えていく場を設定し、教育力の向上を図る。			
ブロック内相互評価後の気付き	例年通り、美しが丘3校ブロックで交流を図れたことは意義があった。小中合同の活動であるミドリノクやクリーン作戦など、地域ともかかわることのできる活動があったこともよかった。また中学校教諭による6年生に向けた英語の授業や小学校の部活体験や授業、合唱コンクールの見学など9年間を見通した指導が行えるような交流を行うことができた。ただ、今年度は連絡や共通理解が不足していた部分もあったので、今後さらに連絡を密にし、交流をしていく。			ブロック内相互評価後の気付き	小中3校ブロックで、様々な活動に取り組んだ。今年度は、互いに日ごろの授業の様子を参観することで、9年間の義務教育のスタートとゴールを結び、見通しをもった指導をイメージすることができた。さらに今年度は小学校が中学校を参観した際に、3年生の生徒が卒業に向けて取り組んでいる、ソーラン節を披露した。生徒自身が主体的に活動している姿を見ることができ、有意義であった。今後、さらに3校の連携を密にし、9年間を見通しながら、各校で特色のある教育を進めていく。		ブロック内相互評価後の気付き				
学校関係者評価	地域コーディネーターやPTA役員の方、民生委員の方からは、本校の教育活動を概ね評価していた。具体的な内容としては、地域との連携を意識した活動や読書活動の推進、子どもが意欲的に学校での活動に取り組んでいることなどである。課題としては、学校評価アンケートの項目の取り組み内容をより具体的にすることなどのご意見をいただいた。			学校関係者評価	学校・地域コーディネーターやPTAの役員の方からは、評価できる点と課題点について評価をいただいた。評価できる点としては、行事で見せる子どもたちの姿のすばらしさや、それにかかわる日ごろの教育活動については、課題としては、地域とのつながりをより深くしていくという点が挙がった。また、学校評価の評価項目が分かりにくいというご指摘もいただいた。今後、より分かりやすく具体的に分かりやすいものを目指して改善していく。		学校関係者評価				
学校経営中期取組目標振り返り	今年度の目標をふり返ると教職員が厳しい状況の中、一丸となって職務に取り組むことができた。また、健康チャレンジやあいさつ運動、ハンカチ・ティッシュの携帯の呼びかけ運動などを1年間通して行ったことで運動に楽しんで取り組んだり、気持ちをこめたあいさつがめざましく、全校に健康意識が定着した。さらに、PTAを中心に地域と緊密に連携し、ともに活動する機会を増やしたことで、児童自身が地域に支えられているという意識も高くなった。また、家庭や教職員の中でも意識の向上が見られた。			学校経営中期取組目標振り返り	今年度の教育活動をふり返り、重点研等で系統立てた研究や授業実践を行ったことで、子どもが主体的に課題意識をもったり、学習に取り組む姿が見られた。また、児童一人ひとりの課題を学年の職員や児童支援専任と、また学校全体として共有し、安心して過ごすことができる学校づくりに努めた。健康教育にも1年間を通じて取り組み、児童の健康意識を高めることができた。地域との連携については、課題が残る部分もあったが、今後も学校から子どもへの呼びかけを継続して行っていく。		学校経営中期取組目標振り返り				

